

J Aのリスクマネジメントの目的の2つ目は、「目標利益の導入による安定収益の確保と効率性の向上」だ。これまでの発想は、事業を推進した結果、最終的に利益が発生するといった考え方だった。だが、J Aの総合的リスクマネジメントでは、まず最終的に毎期確保する利益の水準を決定する。最終利益水準が決められていることから目標利益を達成するためコストの削減か、取扱高を増やすか、効率性を上げるか、いずれかの対策を取らなければ

## 職場のマネジメント

⑥4

ば目標利益が達成できないことになる。  
最終利益が明確であれば  
**収益確保と責任明確化**

決定し、収支の改善を実現した例など、億単位の収支改善が達成されている。リスクマネジメントを行う意義、本質は最終的には利益水準の維持、向上にある。

また、従業員も任せられて

# 目標決め競争力確保

格付けを行っており、格付けに応じて担保の充足度合いや金利水準を内部規定として定めている。ほかの金融機関では既に担保ではなく、相手の信頼度による融資を行っており、J Aの担保主義の貸し出しが多いのはこうした内部ルールがなかったためだ。

明確な経営改善の対策が生み出され、経営者が方針を決定することで大きく経営が変わっていく。  
実際のJ Aでも部門を越えたプロジェクトによる改善案や運用方針を作成・

る。  
3つ目の目的は、「内部ルールの構築と責任の明確化」だ。リスクマネジメントを実務として実践するには内部規定が必要になる。内部ルールが確立して

権限の範囲が明らかになり、それを越えない範囲で行動すれば事業展開の自由度が出てくるし、越えれば明らかに責任が生じる。  
ほかの金融機関では債務者の信用度に応じて債務者

J Aのリスクマネジメントの確立は対外的な競争力の確保の点でも不可欠である。  
(J A総研主席研究員・加島徹)  
(次回は30日付)